

平成28年6月の思いやり通信

街の電力 水素で発電 大林組・川重 CO2 2割削減

まず2018年 神戸で

大林組と川崎重工業は、2018年に水素を燃料として作った電気を神戸市の一部地域に供給する事業を始めます。地域電源として水素発電を導入するのは世界初。主要な温暖化ガスである二酸化炭素の排出量を従来の火力発電に比べ2割以上削減できます。水素エネルギーを自動車や家庭にとどまらず、地域で大量利用する取り組みが始まります。

事業には関西電力と神戸市が協力。ポートアイランド地区の約25ヘクタールに電気を供給します。現在とほぼ同じ電気料金で域内のホテルや会議場などに供給します。約1万人が働くオフィス街の電気を賄える規模です。当面は水素2割に天然ガス8割を混ぜて発電します。

※水素発電 二酸化炭素の排出ゼロ

水素を燃料に用いて電気を作ること。発電時に二酸化炭素を出さず、温暖化対策につながります。水素は製鉄所や下水処理場など多様な場所から調達でき、化石燃料に比べ、エネルギー安全保障の観点からも有用とされます。

発電方法は、燃料電池のように水素と酸素を化学反応させて電気を作る方法と、水素を燃やしてタービンを回して作る方法の2種類が代表的です。

(2016年5月2日 日本経済新聞記事から抜粋)

風力・地熱発電に参入 住友林業、バイオマスも増強

3年で200億円投資

住友林業は再生可能エネルギー事業を強化します。風力・地熱発電事業に参入するほか、すでに展開している木質バイオマス発電所も増やします。国内外の5カ所程度で新たな発電所の事業化を目指します。

(2016年5月24日 日本経済新聞記事から抜粋)



テーマは「思いやり」 エコライフについて考えます。

思いやり通信 NO. 2



太陽光パネル 住宅に照準 メガソーラーは市場縮小

保守拠点を倍増／セット販売 価格下落 普及に弾み

太陽光パネルメーカー各社が家庭向けの営業に注力しています。

売買目的のメガソーラーから作った電気の買い取り価格下落を受け、住宅用が主戦場となっています。パネルの価格も下落傾向です。

国内の太陽光パネル市場に占める海外メーカー製は5割以上ですが、住宅用に限ると2割未満のようです。

住宅用太陽光発電の導入費用は現在、1キロワットあたり35万円前後で、この2年間で1割強下がりました。工事費も含め導入費用は、新築で現在150万円ほどが相場。

産業用太陽光発電システムの市場規模は、2020年度に430キロワットと2015年度より4割減る見込み。

住宅用の市場規模は、2020年度に200万キロワット。2015年度の2倍強になると予測しています。

(2016年5月2日 日本経済新聞記事から抜粋)

